

南木曾町議会平成25年9月定例会

9月定例会は、9月17日から25日までの会期で開催されました。
決算認定、条例議案、補正予算議案など、すべてを可決しました。

平成24年度決算を認定 ～決算認定審議から(抜粋)～

Q 町監査委員による平成24年度決算審査報告を受けて、決算認定審議が9月25日に行われ、全会一致で認定されました。
主な審議内容は次のとおりです。

Q 山崎議員

A 24年度決算の実質収支は6700万円だが、これは不用額の合計でもある。不用額が年度途中で生じる都度こまめに予算補正をして、地域振興協議会等から出される要望等に添えていく必要がある。

Q 総務課長

A 2月に補正すべきでしたが、期末のため繰越し事業になる可能性がありました。次年度からは期中対応も考えます。

Q 山崎議員

A 固定資産税は町税の主要財源だが、不納欠損や滞納が増加している。

Q 総務課長

A 税務時効もあり、支払財産がないためです。

Q 山崎議員

A 外国人英語指導助手(ALT)は小中学校で十分機能しているか。また、ALTの指導や委託に問題はないか。

Q 教育長

A ALTは英語授業だけでなく外国文化に触れる効果があり、民間会社に委託しています。学校が評価して委託会社と教育委員会へ報告していますが、委託先は成果を見て検討します。

Q 松原議員

A 遊休農地の草刈り機の購入台数と貸し出し状況は。

Q 産業観光課長

A 乗用機1台、手押し機1台、法面用草刈機2台で、現在2台貸し出し中です。講習会を開くなど有効に活用してもらえよう考えています。

Q 伊藤議員

A 決算と成果報告を住民へ報告すべきではないか。

Q 町長

A 毎年広報に掲載しています。

Q 伊藤議員

A 遊休荒廃地のマップを作成し、住民とともに荒廃地対策を。また、支障木除去など計画的に景観整備をして欲しい。

Q 産業観光課長

A 遊休荒廃地は、農業委員会で調査し、地図を作成中です。

Q 坂本議員

A 町の観光を立て直すためにも駅の無人化問題に取り組むべき。切符販売は当初、夜8時までの計画だったが。

Q 産業観光課長

A 「駅周辺利活用推進委員会」で、観光案内人を設置する等検討中です。夜8時までの切符販売は、要員確保が困難な状態です。

Q 坂本議員

A 保育所審議会は4回の予定

Q が実施2回になっている。予定通り開催し保護者などの疎通が必要だったのでは。

Q 住民課長

A 審議会は懸案について諮問するものです。保護者との懇談会は3回開催しました。

Q 北原議員

A 指定管理施設(主に床浪荘、桃介記念館)の今後の経営は。町が管理しているので、問題点を報告すべきである。

Q 産業観光課長

A 床浪荘は、コテージの再利用など経営の改善を検討しています。桃介記念館は、組合で工夫して管理を継続してもらいたいと思います。

Q 矢澤議員

A ポイ捨てパトロールの出勤日数が1-2に減っている理由は。募集年齢制限を上げられないか。

Q 建設環境課長

A 平成22年から24年は、緊急雇用対策で行いましたが、25年度から町単独事業となり予算も減少しました。募集年齢は、現在65歳以下ですが、来年度以降、検討します。

Q 勝野議員

三留野地区の水洗化率が低い。きれいな水を下流に流すために、水洗化率70%を目指して浄化槽の共同設置を推進してもらいたい。

A 建設環境課長

未設置の家庭へPRしてありますが、場所や後継者などの問題があります。南木曾駅トイレとおんたけ交通事務所で共同設置をしました。今後も推進します。

関連意見 山崎議員

川の流域単位で大型の共同浄化槽の設置を検討されたい。

9月定例会

議案

●木曾広域連合議員定数の変更

木曾町議会の議員定数改正に伴い、木曾広域連合議会の議員定数を22人から20人に変更するものです。

第3回臨時議会の報告

8月27日、第3回臨時議会が招集され、すべての議案が可決されました。

●読書保育園舎耐震工事請負契約の締結

・契約金額
1億2915万円

・契約の相手方
(株)麦島建設長野営業所

●専決処分事項の承認を求めることについて(一般会計補正予算(第2号))

ポンプ操法大会の県大会出場に伴う経費138万1千円を増額しました。

●読書保育園舎耐震工事請負契約の変更

変更前金額
1億2915万円
変更後金額
1億4523万6千円

内容

遊戯室の暗幕、保育室等鋼製建具・ガラス工事、園庭舗装工及び整地など。

●資源ごみストックヤードに関する条例の制定

読書天白地区に新設したストックヤードの条例を制定しました。

請願・陳情

●理科教育設備整備等に関する要請書

内容

新学習指導要領に沿った観察・実験器具の整備充実を求めるものです。

提出者

全国小学校理科研究協議会
全国中学校理科教育研究会

結果

採択・執行部送付

●憲法96条の発議要件緩和に反対する請願

内容

日本国憲法改正の発議要件を2/3以上から過半数にするに反対するものです。

提出者

南木曾町九条の会
代表 越 隆太郎

結果

採択・意見書送付

●消費税増税の中止を求める請願書

内容

平成26年4月からの消費税増税の中止を求めるものです。

提出者

全日本年金者組合木曾支部
支部長 新床 悦郎

結果

不採択

●森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための陳情

内容

森林・林業・山村対策を推進するため、石油石炭税の税率の特例による税収の一定割合を、森林面積に応じて市区町村に譲与する制度の創設を求めるものです。

提出者

全国森林環境税創設促進議員連盟会長 板垣一徳

結果

採択・意見書送付

議員発議

●道州制導入に断固反対する意見書について

内容

町村議会議長全国大会等の決定を受けて、道州制の導入に反対するものです。

結果

全員賛成で採択・意見書送付

一般質問

町政

を

問う

7人の議員が一般質問



矢澤 和重

身障者の支援
グループホームの整備は

質 第9次総合計画の「みんなであらうまちづくり」には、障害者福祉の充実が記載されている。障害のある人たちの中には、自分の要望を伝えたり自分のおかれている状況を判断することが難しい人もいる。家族の心配は、高齢化により現在の生活が維持できなくなった時の、障害者の生活である。地域生活が難しくなった方は、近隣の施設に入所せざるを得ないが、住み慣れた場所で暮らせることが大切だと思う。

町民の中には、その心配事が近い将来現実を迎えると危惧しているという話も聞く。総合計画に記載されている

グループホーム等の生活基盤の整備について、木曾社会福祉事業協会（以下、事業協会と略す）から建設の話があるようだが、どのような内容か

答 家族の皆さんの心配は理解します。グループホームの整備については、利用されたい方の要望もあり、事業協会からも、木曾の南部地区に設置したいとの話があります。

昨年、NPO法人なぎそ福祉会・社会福祉協議会・町・県・福祉団体等で「自分たちの町でくらす行動計画」を策定しました。グループホームの建設については、敷地等を研究しています。事業協会との協議では、協会の資金での建設は可能ですが、運営は地元力を借りながら行う必要があるとの内容でした。町としても、実施計画にあたり、諸条件を満たすよう検討を進めます。

質 役場の玄関は、雨降りの時の乗り降りが不便なので「ひさし」ができないか。

小学校、中学校でも送迎があるし、保育園にも設置を検討したい。

答 小中学校で屋根の下で乗降することは余り考えられませんが、役場については植木を移動する等、可能かどうか検討します。



松原 崇文

防災訓練の
内容改善を

質 田立地区で行われた土砂災害を想定した組織的な大規模防災訓練は、災害時に住民が自分自身の安全を守るといった観点からすると、不十分な訓練ではなかったか。

答 今年度は木曾建設事務所と共催で全国統一防災訓練を実施しました。台風による大雨を想定し、情報の収集、伝達、避難勧告の発令、避難所の開設、運営、災害時要支援者関連施設および住宅への支援、防災意識の向上を重点に置いて実施されました。地

域で消防団に協力いただき約百名の参加がありました。指摘どおり住民主体の訓練ではなく、県の訓練計画に沿った訓練となりました。今後はより実践的な訓練を取り入れていきたいと思えます。



田立地区、防災訓練における学習会の様子

意見

訓練中、町長が「ひとりひとりが、自分で身の安全を守るようにして欲しい。」と言われた。住民主体の訓練をやって欲しい。例えば、ハザードマップを基に町から「川が氾濫したので各自安全な場所に避難してください」という情報を出し、住



伊藤 伸三

通園バスに
添乗員を

民に、各自で安全な場所を考えて避難してもらう。そこへ消防団員が合流し、避難者数やけが人などを無線で報告し、訓練後に反省を住民それぞれにしてもらうと有意義な訓練になると思う。県に町の方針を伝え、年一回の防災訓練をしっかりとやって欲しい。

質 通園バスに添乗員を付けて欲しいという声が寄せられている。交通事故や、乗り降りの安全の確保に万全を期さなければならぬが、現在は4月に一週間添乗員が付いているだけである。大桑村では、通年添乗員を付けている。第9次総合計画の冒頭で町長は「これからは、お金より命を大切にす時代」と述べており、通園バスには添乗員を付けて欲しい。バス通園児は何人いるか。



田立に開設した読書保育園仮園舎

答 現在は40名程が利用して
います。郡内の大桑村以
外の町村では、通園バスのない
状態または、当町と同様に
年度初めのみ添乗しています。
現状でご理解いただきたいと
思います。

質 保護者が園まで送迎でき
ず、バスを利用している。
妻籠では一園統合のための部
分統合に協力し、バス通園と
なった。「安心・安全の町」
という観点で検討すべきだ。
答 読書保育園の改修のため
田立の仮園舎へ行くバス
には添乗員を配置します。そ
の状況も見て検討します。

介護保険制度の
大変な改正

質 政府の来年度の介護保険
改定の検討で、制度の改
悪が出されている。一つは、
全体で150万人といわれる
要支援1または2の人達を制
度から締め出し、市町村に任
せてしまうというものだ。市
町村の実情に応じた予防事業
であり、全国一律の介護基準
による保険制度とは違う。要
支援の制度は、生活支援や要
介護を防止認知症への対応な
ど非常に重要な部分だが、こ
のような改定は高齢者のみ
ならず、町も大変なことにな
るのではないか。
答 今後、国の議論の行方を
注視して、木曾広域連合
とともに対応したいと思いま
す。

意見 介護サービス利用料を1
割負担から所得により2
割負担に上げる方針も検
討されている。所得の基準も
明確にされず、場合によって
は、住民税本人課税者が対象
となる可能性もある。そう
なると、利用者の37%が2割負

担となる。また、特養ホーム
の利用者で軽度者は対象から
除外され、中・重度者のみ対
象との方針も検討されている。
これらの問題を分析し、福
祉の現場でも検討し、住民や
地方の声を関係機関に反映さ
れるよう対策を講じるべきで
ある。



坂本 満

老朽化した
集会施設整備の
対応改善を

質 昭和50年代以降整備して
きている集会施設の一部
が老朽化し、不備をきたして
いる場合がある。集会施設の
機能を損なうような事態に
なったときどう対応するか。
答 「南木曾町区等集会施設
整備事業実施要綱」があ
りますが、部分的な改修の規
定がないので、一定の改修基
準を設け、町で行うのか区で
行うのか、地元負担、補助制度
等について検討していきます。

質 町の施設の長寿命化など、
目安、基準を作る必要が
あると思うが。

答 公営住宅の長寿命化計画
は策定していますが、そ
の他の施設の長寿命化計画も
重要なので、先進市町村の事
例などを参考に、今後検討し
たいと思います。



十二兼集会所では床の一部が老朽化している

風疹ワクチンの
公費助成を

質 風疹被害の拡大を抑制す
るためには風疹ワクチン
接種が必要である。成人のワ
クチン接種への助成が必要で

はないか。

答 各町村の対応や情勢を考
慮する中で実施に向けて
検討を始めたと思います。
妊娠を望む女性とその配偶
者等のワクチン接種希望者へ
は風疹抗体検査をし、抗体の
無い場合のワクチン接種につ
いて助成を行うことを考えて
います。

質 平成24年から75歳以上の
肺炎球菌ワクチンの助成
を行っている。肺炎球菌によ
る患者は65歳以上で急増す
るため、70歳くらいから助成で
きないか。
答 準備が整いしだい、助成
を行うことを検討します。

バイオマス発電
計画について

質 南木曾町と同様な計画が
ある群馬県や山梨県では、
県の環境アセスメントを行っ
ている。南木曾ではなぜ県の
環境アセスを行わないのか。
答 県ごとに基準が違い、事
業者が県に確認し、条例
には該当しないという返事
です。

質 自主アクセスということであるが、県による環境アセスと今回の自主アクセスとは具体的にどう違うのか。

答 長野県の「環境影響評価技術指針」では、18の環境要素について検討するようになっていきます。南木曾のバイオマス発電計画では、大気汚染、地上気象、水質汚濁、騒音・振動、悪臭の5点について自主アクセスを行います。

質 12月の全員協議会で、基準値は県の基準より10%厳しくするという説明もあつたが、内容の把握はしているか。

答 基準値については現在把握していませんが、県の基準値以内を目標と考えています。

質 計画の地域に与える影響は大きい。20年後の森林林業をどう考えているか。

答 バイオマス計画がさらに具体化した時点で、町の森林整備計画も見直す必要があると考えます。



山崎 隆二

障害者福祉の推進を

質 「ノーマライゼーション」の理念を持ち、障害者を社会全体で支援しなければならぬ。町の取組み状況を伺う。

答 障害者総合支援法に沿って、木曾障害者総合支援センター、社協、NPOなど福祉会等と連携して行っています。

質 知的障害者の自立支援で、就労支援A型とB型の推進状況はどうか。

答 就労支援施設に通う方への通勤費1・2助成や、「ひだまり工房」で就労支援施設B型を提供しています。当施設への給付は、訓練等給付費で1200万円、運営支援は370万円です。

質 町の総合計画や福祉計画に夜間共同生活援助の「障害者グループホーム」の

町内設置がある。木曾社会福祉事業協会では郡南部への新設計画があるので、早期に設置場所の提供について動くべきだ。

答 駅周辺の空き地など検討し、適地を見つけないと思いません。

質 なぎそ福祉会では、「自分たちの町でくらす行動計画」を策定し、障害者の活動支援に取組んでいる。運営する「萬屋」への支援拡大が必要だ。

答 23年度は157万円の運営費・人件費・活動費を補助し、24年度は220万円に拡大しました。

質 民法上、「後見」、「保佐」「補助」の3類型に応じた障害者権利擁護の規定があるが、町では法定後見だけが対象か。

答 任意後見は当該者が将来に備えて行う民事制度のため対応が困難です。

質 任意後見は、保佐、補助の方も契約できるので活用すべきと思う。

答 今後、町の「成年後見要綱」等の内容を確認し、

対応したいと思えます。

質 知的障害者の親が死亡した場合の「親亡き後の問題」を含み支援推進が必要と思ふ。

答 障害者支援は重要な問題なので検討していきます。

太陽光発電設置に町の補助を

質 バイオマス発電施設が検討されているが、大規模施設のため町民独自に取組むことはできず、小水力発電では梨子沢に国の試験施設があるが、水利権問題もあり簡単でない。民間で取組める太陽光発電を町を挙げて推進するべきと思うが、

質 太陽光発電への国の補助に加えて、推進策として補助制度を導入するべきと思ふ。

答 南木曾町では日照条件にバラつきがあるため、町全体での効果が見込めないことから補助制度は考えていません。



太陽光パネルを設置した住宅

現在何世帯が太陽光発電設備を設けているか。

答 1807世帯中、中部電力との売電契約は50世帯です。

質 「自然エネルギー木曾地区協議会」での議論はどうか。

答 町も参加していますが、先進地視察等を行っているところですので。



勝野 春喜

安心安全な町づくりを

質 高温、集中豪雨、濁水、竜巻など今年も異状気象

が続ぎ、隣の阿智村では、台風豪雨で災害が発生し、他人事ではない。大雨特別警報が出ると、自分自身で安全を確保する必要がある。町の降雨量の数値を伺う。

答 平成20年から24年の年間雨量は2000から3200mmの間で、6月から8月は1000から1200mmです。近年の状況は落着いています。

意見 南木曾は、伊勢小屋沢や昭和40、41年の河川の氾濫など、水害の多い町であるので、過去の記録の保存が大切だ。

質 国や県の防災事業の状況はどうか。

答 国の直轄で5ヶ所、県で1ヶ所砂防事業を進めています。用地測量、地元説明会、砂防指定などに取り組んでいます。

意見 対応すべき箇所が多くあるので砂防事業の推進をお願いする。

質 学校・保育園・住民・高齢者等への熱中症対策を伺う。

答 学校・保育園では水筒持参、扇風機・エアコンの

活用、中学校への冷水器設置などの対策を行い、高齢者、要介護者、町民には広報で啓発し、健康教室等の対策を進めました。

質 最近、民間の車輛や消防器具等の盗難が続いている。警察との連携、情報収集事後対策を伺う。

答 郡内で住宅等への侵入や各種盗難が続いています。事件発生後は、警察から広報無線での注意喚起の依頼がきます。町では、施錠や防犯灯カメラの設置を呼びかけているほか、青色ランプの防犯パトロール車3台で町内を常時巡回しています。

森林害虫被害の調査・対策は

質 周辺の山の葉枯れが著しいが、調査と対策の現状を伺う。

答 山の葉枯れは、カシノナガキクイ虫と共生する菌の害によるもので、平成23年より沼田で発生し、現在島田地籍まで拡大しています。現在、県が被害調査をしているほか、町と県林務課で現地に

トラップを仕掛け、実態調査を行い捕獲しています。森林管理署も含め対応を検討する等、木曾に対策協議会を設けて被害拡大防止を始めました。J Rや関電とも協議して伐倒する予定です。



早川 親利

南木曾駅周辺の防犯対策を

質 南木曾駅が無人化になってから、駅周辺で夕方や夜間に迷惑行為や不健全行為が発生している。特に駅玄関前や待合室での若者の飲食・喫煙・騒ぎ等で待合客に迷惑をかけている。ホームでの喫煙を注意したらくっつかかられた事例もあり、新しいトイレ内では、不健全行為を行った形跡もあったようだ。警察や学校、保護者会役員が見回り等をして注意をしているが、このような行為は夜間に駅員がいなくなったことも一因と考えられる。今後駅周

辺の防犯対策をどう考えるか。
答 高校生と思われる者の非行が行われており、防犯対策が必要と思います。警察とも相談して具体策を検討しています。

質 切符委託販売員は、4時までだが、夜8時まで延長できないか。

答 切符販売のみの委託であり、防犯のための延長はできません。夜まで勤務できる人の確保も困難な状況です。切符委託販売員がいるだけでも、迷惑行為の防止になる。時間延長を再検討して欲しい。

意見 無人化に伴い、J R東海は防犯カメラを撤去したが、駅舎管理や電車運行は今までもおりなのに、あまりに無責任と思う。J R東海に設置を交渉できないか。

質 無人化になる時、撤去しないようお願いしたが撤去されてしまいました。再度交渉しますが、無理な場合町で設置を検討します。

質 明るい場所では、犯罪が起きにくい。駅付近や商店街には、商工会が中心とな

り設置した街路灯があるが、年数も経過し壊れた物や暗い所もある。商工会と連携し見直せないか。

答 商工会と協議し補助金を活用して設置できる方向で検討します

南木曾駅周辺の案内板等の整備を

質 南木曾駅待合室内にある観光案内所の活用はどのように考えているか。

答 現在活用できていません。町・商工会・おんたけ交通・駅前商店街代表の方々と、「南木曾駅舎等利活用委員会」を立ち上げて検討しています。利活用案ができるまで、おんたけ交通の事務所内で案内してもらうよう、案内矢印等を表示して欲しい。

意見 南木曾駅から妻籠方面に向う歩道が分かりづらく、観光客が迷うことがあるようだ。案内板の整備はできないか。

質 妻籠へ向かうルートは3か所ありますが、初めての方は迷うかもしれません。どのルートが良いか部内で検

討して欲しい。

討し、案内板の整備をします。

意見
観光ルートも活用委員
会で検討して欲しい。案
内板には、英語・韓国語・
中国語なども併記するとよい。



南木曽駅の案内板と観光案内所

補正予算審議(抜粋)

Q 山崎議員

約2億円の追加補正だが、
財源の内訳を説明願う。

A 総務課長

当初予算の地域経済雇
用対策費6600万円が2
倍となり、地方交付税の留
保財源1億3千万円を加え、
総額約2億円の補正となり
ました。

Q 早川議員

田立元組に新築するユー
アイ住宅は、将来入居者に
譲渡できるように一戸建てに
ならないか。

A 建設環境課長

土地面積の関係もあり、
今回は入居者数を多くする
ため、一戸建てではなく、
2棟4戸を新築します。

Q 勝野議員

田立ユーアイ住宅新築の
入札は地元優先にして欲し

い。

A 建設環境課長

可能であれば、分割入札
とします。

Q 伊藤議員

リニア建設に伴い、蘭地
区に坑口が2か所計画され
ているが、土砂運搬トラッ
クの交通が心配である。ま
た、リニアが通過する水源
地などへの環境変化が心配
である。

A 町長

住民からの要望をまとめ、
県へ要望します。

Q 坂本議員

博物館20周年記念企画に
使う予算内容は何か。

A 教育長

実施計画にあるとおり、
全国重伝建地区のパネルや
観光案内板を更新します。

一般会計補正予算 総額

1億8801万円を追加
35億2372万円に

●会計別補正予算

(単位：千円)

会 計	補正額	補正後の金額
一般会計	188,007	3,523,720
国民健康保険特別会計	△ 42	506,955
簡易水道事業特別会計	2,055	185,083
町営妻籠宿有料駐車場 特別会計	現予算内で 152千円の組み替え	
農業集落排水事業特別会計	390	68,532

●一般会計補正の主なもの

(単位：千円)

事 業 名	金 額
ユーアイ住宅建設事業(1棟2戸の追加)	45,781
南木曽小学校維持管理経費(駐車場舗装)	11,000
田立保育園耐震改修設計の前倒し実施	9,450
各分館の施設修繕経費及び分館管理備品の 購入経費	9,261
天白公園イベント広場の遊具の撤去及び 新設経費	3,500
道路維持補修事業 (待避所及び防護柵の設置等)	10,700
社会福祉施設管理経費 (ひだまり工房屋根修繕)	850

Q 坂本議員

保育料の2割還元措置は来年度以降も継続できるか。

A 町長

財政状況をみながら検討します。

Q 早川議員

松くい虫防除対策の内容は。

A 産業観光課長

町全域で40立方メートル分の伐採などを予定しています。

Q 早川議員

柿其深谷のつり橋の修理はどのようになっているか。

A 建設環境課長

通行止めはせず、来年度から部分的に修理する予定です。

委員会報告

議会のあり方

研究特別委員会報告

議会のテレビ中継、住民懇談会の開催について話し合い、町民アンケートを実施する方向になりました。

国道256号改良促進

特別委員会報告

国道256号線の現地視察と、木曾建設事務所との意見交換会を9月24日に行いました。



国道256視察、現場での説明

全員協議会報告(抜粋)

資源ごみストックヤード

9月17日協議

概要

読書天白地籍の町道脇に153.6mの鉄骨平屋建(15t計量器付き)が新設されました。これについての質疑・応答です。

山崎議員

Q 粗大ごみの証紙はどこで購入するか。

A 証紙はストックヤードか、町内で購入し、粗大ごみに貼ってもらいます。

Q 北側の出入り口は町道からの勾配が急だが。

A 雨水等が入ってしまうためそのまま使用し、不都合があれば検討します。

Q 建物の間仕切りやストックヤードの案内板が必要ないか。

A 箱等を置いて仕切りにしてもらいます。案内板は設置の方向で検討します。

早川議員

Q 粗大ごみ受け入れを10月からできないか。

A 資源ごみのストックを先に行い、粗大ごみは受け入れ体制を整えるため26年4月頃からになります。

伊藤議員

Q 週2回の受付は何曜日か。

A 水曜と土曜の午前中で考えています。

Q 家具、サッシなどの受け入れは可能か。

A 今後検討します。

松原議員

Q 受け入れ時の駐車スペースはあるか。

A (有)ミツイシの車庫前も駐車場として使用する予定です。

坂本議員

Q 条例で「ストックヤードの利用者は町民とその他

町長が特に認められた者」とあるが。

A 町外の住民で、里帰り等で家を整理した方も利用できます。

北原議員

Q リサイクル品の収集システムはどうなっているか。利益はあるか。

A 委託会社に、ペットボトル、発泡スチロールの収集運搬、処理業務を委託しています。ダンボールは運搬のみ委託で、売却料が町の会計に入ります。

南木曾バイオマス発電事業計画について

9月25日協議

町の経緯説明

バイオマス発電所計画は、予定地を当初計画の島田地籍(国道19号沿い)から蘭地区森地籍に変更して事業者が進めています。これまでに2回地権者説明会を開催し、8月に蘭地区を中心に地元説明会を開催しています。

「南木曾バイオマス発電事業に係る生活環境影響調査(自主アセス)」の業者概要説明

- ① 長期の事業を続ける上で環境を守るため、会社が自主アセスを行います。
- ② 調査事項は、大気質、騒音、振動、悪臭、水環境です。
- ③ 調査対象区域は、生活環境に影響を及ぼす恐れのある地域として、半径5kmを設定しています。
- ④ 調査内容は、現況把握、将来予測で、影響分析し設計へ反映します。

バイオマス発電所業計画に関する質疑・応答

山崎議員

Q 地下水位、立地条件、土質などの評価と予測は。

A ポーリング調査を実施した結果、深さ4mでN値50の強固な地盤でした。地下水は電気探査で水脈調査を行います。

ボイラーの冷却水は額付川からの取水を考えており、水量は1時間当たり約60tあります。川から半分、残りは地下水を併用する計画です。

Q 年間16万t位の木質燃料の確保が、10年、20年続くと考えて大丈夫ということか。植林も含めた燃料確保サイクルをどう考えているか。

A 国有林については、3.5万tが使用されていない木材で、その1/3程度を利用します。民間についてはヒヤリングの段階です。剪定枝は、国では15万tの予測ですが、2倍以上が出ると予想されます。燃料調達先は変化しますが、枯渇はないと考えています。

伊藤議員

Q 山梨県大月市の設備では県主導のアセスであるが、自主アセスで大丈夫か。

A 長野県の条例に該当する部分がありません。自主アセス調査5項目は、特に周辺住民へ影響を及ぼす可能性のあるものについて行います。交通や自動車の粉塵の問題もあり、「公害防止協定」という形で、町と住民と協議しながら、協定書にまとめて了解をいただく予定です。

Q 間伐材は搬出単価が高いので、燃料は輸入PKS(ヤシ殻)が中心になるのでは。

A 近隣の森林管理署、森林組合、製材所など廻っています。未利用材は計画量4万tのところ、期待値としては6万t未満出ています。パーク材が3.7万t、剪定枝・チップ類が6.4万tで、約16万tが集材期待値です。期待値通りであればPKSの輸入を使わないことも考えています。

坂本議員

Q 排出ガスの算定根拠はあるのか。

A 今の設計段階で、排出ガス量は時間7~8万m³です。生木とPKSなので排気量はあまり変動しないと予測しています。

Q 排気ガスの着地点は。

A 現地データにより最悪の気象条件で検討します。無風状態で周辺にそのまま排気ガスが下降するような場合や、山からの風の影響などを設定し、最大着地濃度を算出・予測し、50mの煙突高さも検討し直します。

Q 島田付近まで送電線施設が必要だが。

A 送電線は環境アセスをやる条件にはなりません。送電ルートに関しては中部電力に依頼しており、直線で45kmですが、景観への配慮をお願いしています。

Q ボイラー冷却水の出口はどこか。

A 出口は額付川で、運用時には場所を調査します。

Q 地盤の確認は大丈夫か。

A ポーリングは8箇所行い、30~50mの深さで確認し、中間に別の固い層があります。

Q 地元説明ではボイラーは水冷式としているが、水が足りない場合は、空冷式になり音も大きくなるのではないか。

A 地下水が充分とれないとかの問題が生じたときは空冷も視野に入れています。水が充分ないと20年、30年の運転は出来ないの地下水の調査もしています。

Q 循環型ボイラーというのはJFE社製か。

A プラントメーカーは検討中です。

Q JFEの循環型ボイラーは、生木を含め廃プラも燃やせるというメーカーも燃やせるというメーカーも説明だ。この先状況が変わっても燃やすということにならないか。

A 未利用木材、PKS、一般木材などの価格で事業計画をしており、計画にそぐわないものを入れることは、考えていません。

Q PKSを使った場合に、使用データとして出てくるのか。

A 電力固定買取制度では、燃料に何をどれだけ使ったかという数字を出すので、その量を報告できます。

産業観光課長

大まかには理解していただいたということで、事業者の方で地元、地権者と話をしながら、詳細、測量、設計に入っていく予定です。進捗途中、質問等あれば町に言ってもらえば事業者に伝えていきます。

木曾郡町村議会議員総会開催

平成25年度木曾郡町村議会議員総会が、7月30日に上松町の木曾勤労者福祉センターで開催されました。前年度総会の決議事項の処理報告の後、今年度の提出議案の審議がなされ、全ての議案が採択となりました。

本年度は、7項目の議案が提出され、南木曾町議会からは矢沢和重議員が「木曾川における水力発電所の水利権更新について」を提案しました。決議された議案は次のとおりです。

総会終了後は、山梨学院大学法学部教授の江藤俊昭氏による「住民自治の進展と議会改革の課題」と題した講演を聴講しました。

1. 木曾川における水力発電所の水利権更新について

(南木曾町議会提案)

水利権の更新時期がここ数年の間に到来することから、更新にあたり地元住民

の理解を深めること、小水力発電への利用等住民の要望を反映する対応で臨むこと、30年の水利権期間を10年とすること。また、最近の異常気象に伴う洪水による災害防止のため、すべてのダムにおいて洪水調整を義務化することを要望します。



提案を行う矢沢議員

2. 国有林材入札制度と木曾ひのき大径木処理について

(上松町議会提案)

木曾谷だけしかない木曾

ひのき大径木を安定的に供給するため、保護林の設定を行うこと。また、関係町村・地元業界との意思疎通を図りつつ、神社・仏閣は従来からの地元技術を駆使した製品加工により建立することを要望します。

3. 木曾の再生について

(上松町議会提案)

雑木を利用した、薪・キノコのホダ木・木炭などの製品化、休耕田・小水力発電を利用した水耕栽培施設の建設、放牧主体の畜産業の展開と付加価値をつけた健康食品の生産による木曾の活性化を要望します。

4. 松くい虫等被害対策の推進について

(大桑村議会提案)

松くい虫の被害は、昭和57年に南木曾町において初めて確認され、30年間南木曾町における対応によりとどまっています。最近、被害が北上していることから、防除予算を確保すること、また駆除技術の開発等を要望します。

5. 木曾病院の医師・看護師等の確保と機能充実を求めることについて

(木曾町議会提案)

木曾病院が地域の中核病院として維持できるよう、医師・看護師など医療従事者確保のための対策を講じること、県立病院としての機能充実を図ること、信州木曾看護専門学校の充実・整備に県の特段の高配を求めることを要望します。

6. 野生鳥獣による被害対策の推進について

(議長会提案)

野生鳥獣による様々な被害を食い止め減少させながら、人間との共生ができる地域を構築するため、計画的な個体調整を行うこと、狩猟者の育成と確保を図ること、防護柵・緩衝帯整備等の支援策を充実することを要望します。

7. 木曾地区主要幹線道路の整備促進について

(議長会提案)

郡内では国道19号や県道以外に迂回路がなく、大災害が発生した場合には住民生活へ多大な影響を及ぼし、災害緊急輸送路としての機能も喪失してしまいます。また観光産業、機械金属製造業を始めとする産業活動、住民の日常生活を支える道路交通網の整備は地域の最重要課題です。

地域の活性化を図るため、国道19号、国道256号、国道361号、木曾川右岸道路、広域観光ルート及び地方道路の整備促進を強く要望します。



講演する山梨学院大学 江藤 俊昭 教授

木曾広域連合
議会報告

木曾広域連合議会第3回定例会が8月30日に開催されました。

●平成25年度一般会計補正
予算(第2号)

915万5千円を追加し、総額3億3708万7千円となりました。主に、繰越金の確定による町村分担金の補正及び給与減額措置に伴う人件費の補正です。

●平成25年度介護保険特別
会計補正予算(第2号)

8157万2千円を追加し、総額39億8177万3千円となりました。主に、繰越金の確定による前年度経費の精算に伴う補正です。

●平成24年度木曾広域連合
各会計の決算が次のとおり
り認定されました。

平成24年度 木曾広域連合各会計歳入歳出決算 (単位：円)

会 計	歳入決算額	歳出決算額	翌年度へ 繰り越すべき 金 額	実質収支額
一般会計	3,100,720,000	2,810,000,000	166,510,000	124,200,000
介護保険特別会計	3,725,930,000	3,645,510,000	0	80,410,000
合 計	6,826,660,000	6,455,510,000	166,510,000	204,620,000

松塩筑木曾
老人福祉施設組合
議会報告

松塩筑木曾老人福祉施設組合議会臨時会が7月26日に開催されました。

●平成25年度一般会計補正
予算(第1号)

1億1300万円を追加し、総額47億6900万円となりました。主に、太陽光パネル設置費用及び、施設の維持、管理運営に必要な経費です。

●平成24年度一般会計補正
予算(第3号)の専決処
分報告

1000万円を減額し、総額46億500万円となりました。

議会の傍聴にお越しく下さい



傍聴の様子

定例会は年4回(3月・6月・9月・12月)開催されます。

※9月の議会は、2日間で21人の傍聴がありました。

編集後記

今回の議会では、平成24年度の決算審議やスタートした第9次総合計画の具体化に向けてなど、大切な議論が交わされました。

議会での発言の根底にある町民の多くの願いを行政とかみ合わせなければと思いますが、議員定数割れの現状は町民の願いを届ける機会を確実に減らしていると感じるこの頃です。

編集委員長 山崎 隆二
編集委員 坂本 満(記)
早川 親利